

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、生徒の実態を踏まえて、魅力ある定時制通信制教育の推進に努めてきた。さまざまな問題を抱えた生徒たちが、卒業後社会人として自立し、逞しく生きる力を身に付けるため、今年度も引き続き、生徒の実態に即した組織的で効果的な指導体制の充実を図るとともに、個々に対応したきめ細かな支援を行った。今年度は6つの重点課題の改善に取り組んだ。

学習活動【その1】では、重点課題を「学習習慣の確立と単位修得」とした。通常の学校生活に困難を抱える生徒が多く、学習習慣が身に付いていないため基礎学力の定着度が低いという現状を踏まえて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を強化し、生徒の状況把握に努め、単位修得や進路目標の意識づけを工夫した。

学習活動【その2】では、重点課題を「読書習慣の定着」とした。読書習慣が身に付いている生徒に限られる現状を踏まえ、廊下掲示や電子掲示板で図書館の利用方法を周知し、図書への関心を促したり、読書感想文・感想画コンクールを企画したりした。

学校生活【その1】では、重点課題を「生徒の自律性・主体性の向上」とした。昼間単位制では、自主的自律的な行動を促すことにより、生徒会が夏服（ポロシャツ）の変更について検討し、教員と生徒会代表による夏服検討委員会において協議を始めた。夜間単位制では人間関係の構築を目的としたプロジェクトを取り入れ、自己肯定感の涵養を図った。

学校生活【その2】では、重点課題を「基本的生活習慣の確立（睡眠）」とした。生徒が良い睡眠をとり、心とからだの健康を目指すようになることを目標として、講演や学園祭時の掲示物等を通してより良い睡眠をとる方法を考え実行しようとする意識の向上を目指した。

進路支援では、重点課題を「進路実現をめざす支援活動」とした。進路決定の際に知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識や学力などに大きな個人差があるため、一斉の進路学習が難しい現状を踏まえ、進路意識の向上のため、外部講師による講義や体験を通して、進路意識の向上に努めた。

特別活動では、重点課題を「生徒が主体となる自主的な特別活動の推進」とした。自主性に乏しく集団活動を苦手とする生徒が多いことに加え、特別活動の時間確保が困難であることから、学校行事への参加に必ずしも積極的ではない現状を踏まえ、生徒会執行委員会と各委員会が連携することにより生徒会活動をより活発化させた。また、地域との交流等、生徒が主体的に参加できる機会を増やし、協働・共生する姿勢の育成を目指した。

7 次年度に向けての課題と方策

今年度も生徒の実態を踏まえた「個々に応じた学習活動」及び「社会的自立に向けた能力を身に付ける」ための支援に重点を置いて取り組んできた。今後は、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動等、あらゆる場面において、担任、年次、授業担当者はもちろん、他の課程の教員や保護者と必要に応じて情報や指導・支援方針を共有し、個別指導に対応できるようにしていきたい。

生徒の自立につなげるために地域や外部機関との連携を積極的に行っていくことが重要である。